



太陽光発電 2016年夏

パネルの高性能化で競争力高め世界市場で拡大目指す

ジンコ・ソーラー 銭晶副会長

ジンコ・ソーラーは、2016年第1四半期のソーラーモジュール出荷量は1,600MWとなりメーカー別で世界トップとなった。また太陽光発電プロジェクトも進めており、同時期の発電量は210GWhに達して、前年同期からは81.7%増加している。今後の製品戦略や太陽光発電プロジェクトをどのように進めるのか、ジンコ・ソーラーの銭晶副会長に話を聞いた。

——2016年第1四半期は売上高が減少したのに粗利益率は上昇している

銭晶 技術開発により太陽光パネルの変換効率が高まったことでkW当たりのコストが下がり、利益率の向上に寄与した。粗利益率は21.3%で、前期の2015年第4四半期(19.5%)や前年同期比(20.3%)をそれぞれ上回っている。世界で四半期の出荷量が一番や粗利益率が最大のPV企業となった。

——ワールドワイドの市場動向はどのように見ているか

銭晶 当社は世界で五つの工場、24ヶ所支社と事務所があり、国それぞれによって市場戦略は異なるが、基本的には全世界の市場で伸ばしていく。今後は中国、日本、米国でも伸びると考えており、南米市場の比率がもう30%を超えていた。

——日本市場はFITの見直しもありメガソーラーのピークが過ぎたといわれる。他社はミドルクラスのソーラーや家庭用に重点を置き始めている

銭晶 日本市場ではこれまでのメガソーラー市場に加えて、住宅用がひとつの重要なポイントになる。コストも



コントロール室

そうだが、設置面積に限られるため、高効率なパネルが必要となる。当社の多結晶モジュールは、スタンダード製品の60セルでブラックタイプが275W、ホワイトタイプが280Wになる。パネルの競争力はあるので、今後は販売店とのアライアンス作りに力を入れる。それは大型の家電販売チェーンも含まれる。

——太陽光発電の売電プロジェクトはどの程度の規模で進めるのか、現在保有しているパイプラインはどの程度か。今後も自社で保有していくのか売却も検討するのか

銭晶 中国国内で太陽光発電所を設置して電力会社に売電しており、2015年12月31日時点で約1006.6MWの太陽光発電プロジェクトが稼働している。またパイプラインは2015年に1GW、2016年は2GWの合計3GWがある。上海と浙江省海寧市にコントロールセンターがあり、発電状況などを集中コントロールしている。例えば発電量が減るとその原因を調査して、表面が汚れている場合は自動的に洗浄するシステムもある。これだけのシステムで管理しているところはないだろう。従って発電所の売却など考えていない。売電収入は高い伸びを示しており、今後の事業で安定収入が見込める。

——太陽電池の技術開発で当面の目標数値はあるか

銭晶 3～5年以内には60セルタイプで出力が280Wから334.5Wになる。他社もチャンピオンデータは並んでいる



銭晶氏

が、これは量産可能な数字だ。これによりさらにコスト低減でき、他社に差別化できる。当社は太陽電池専門メーカーとして技術開発を進め、いたずらに販売量を追わず収益を重視していく。

利益率向上

ジンコソーラーの2016年第1四半期(2016年1～3月)決算は、ソーラーモジュールの総出荷容量は1,600MW。同社のダウンストリーム太陽光発電プロジェクトで使用した166MWを含む。総出荷容量は2015年第4四半期の1710MWから6.4%減少し、2015年第1四半期の789MWより102.7%増加した。総売上高は54億7000万円(8億4,780万ドル)で、2015年第4四半期比で10.0%減、2015年第1四半期比で98.8%増。

粗利益率は21.3%で2015年第4四半期(19.5%)、2015年第1四半期(20.3%)をそれぞれ上回った。営業利益は5億7,370万円(8,900万ドル)で、2015年第4四半期(4億8,270万円)、2015年第1四半期(2億3,000万円)を上回っている。